

(4)日本風味の醤油を中国に嫁がせる

1992年、中国大陸の食卓に殺到する刺身か新鮮食料品の調味料に欠かせない日本味醤油の現地生産をめざし、日本和田寛食品工業株式会社と北京市食品醸造会社が合作契約書に調印し、「北京和田寛食品有限公司」が産声を上げる。

日本味醤油に続き、当該合弁企業はまた北京に日本味のお酢製造工場の立ち上げに合意する。

これらの合弁事業を成功に導き、縁の下の力持ちの役割を果たしたのは、当協会の研修事業部長を務める李聚会。

今になって公開できるようになったが、李聚会氏の当時の社会的位置づけなどの制約により、合弁事業にかかわるすべてのやり取りは李聚会氏の勤務先に極秘で進められ、テレビ局の取材時にカメラマンに李聚会氏の顔を写さないよう、念を再三押すほどの慎重さだった。



